

FUJIFILM X-E4 3つの特徴

Point 1 軽量・コンパクト 洗練されたボディデザイン

重量364g、フラットな形状で厚さわずか32.7mmのボディは、カバンやポケットに収まる大きさ。マグネシウム合金が採用された軍艦部を含めたシックなデザインのボディは、洗練されたアイテムという印象を引き出す。



カメラ設定

撮影モード 絞り優先 絞り値 F16 シャッタースピード 1/800秒 露出補正 -0.7
ISO感度 1600 WB 日陰 使用レンズ XF27mmF2.8 R WR
焦点距離 27mm(40.5mm) フィルムシミュレーション PROVIA/スタンダード

カメラ設定

撮影モード 絞り優先
絞り値 F1.4
シャッタースピード
1/2000秒
露出補正 +0.3
ISO感度 200
WB 晴れ
使用レンズ XF35mmF1.4 R
焦点距離 35mm(52.5mm)
フィルムシミュレーション
PRO Neg. Std



Point 2 瞬時にピントを合わせる オートフォーカス

ハイエンドモデルと同等の最速0.02秒の高速AFは、-7.0EVの低照度でも使用可能で、「顔検出/瞳AF」などの新機能も撮影を強力にサポートする。



カメラ設定

撮影モード プログラム 絞り値 F4.5 シャッタースピード 1/60秒 露出補正 +0.3
ISO感度 800 WB 晴れ 使用レンズ XF55-200mmF3.5-4.8 R LM OIS
焦点距離 67.1mm(101mm) フィルムシミュレーション ETERNA プリーチバイパス

Section
01X-E4の各部名称を
確認しよう

keyword ・ ボタン／ダイヤル／各部名称

1

X-E4の基本をマスターしよう

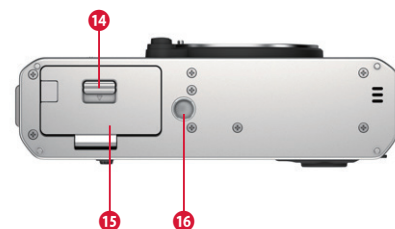
まずはX-E4のボタンやダイヤルの名称と位置を確認しよう。
X-E4が活躍するスナップでは、正確で素早い操作が欠かせない。
そのためには、どこにどんなボタンやダイヤルがあり、どんな機能を持っているかを把握することが第一歩だ。

1 正面・上面の名称



① フロントコマンドダイヤル	⑥ 露出補正ダイヤル
② レンズ取り外しボタン	⑦ Q (クイックメニュー) ボタン
③ シャッターボタン	⑧ シャッタースピードダイヤル
④ Fnボタン	⑨ ホットシュー
⑤ 電源レバー	

2 背面・側面・底面の名称



① 視度調節ダイヤル	⑨ MENU/OK (メニュー / 決定) ボタン
② ファインダー (EVF)	⑩ DISP/BACK (表示 / 戻る) ボタン
③ アイセンサー	⑪ マイク/リモートリリース端子 (φ3.5mm)
④ DRIVE/DELETE (ドライブ/消去) ボタン	⑫ USB端子 (Type-C)
⑤ PLAY (再生) ボタン	⑬ HDMIマイクロ端子 (Type D)
⑥ AEL/AFL (AEロック/AFロック) ボタン	⑭ バッテリーカバーロック
⑦ インジケータランプ タリーランプ	⑮ バッテリーカバー
⑧ フォーカスレバー	⑯ 三脚用ねじ穴

まとめ

● 素早く正確な操作のためにボタンとダイヤルの名称と位置を覚える

1

X-E4の基本をマスターしよう

液晶モニターを使おう

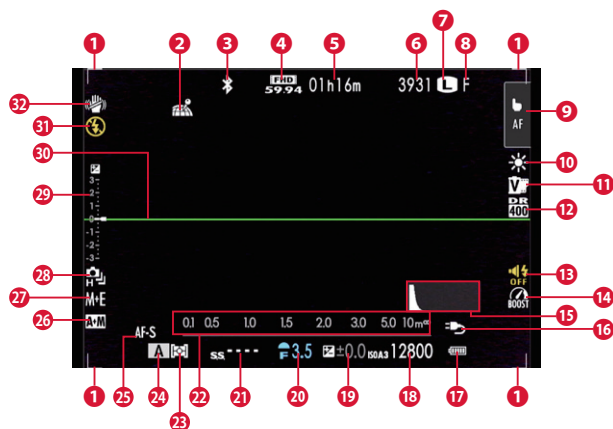
keyword 液晶モニター

1

X-E4の基本をマスターしよう

X-E4の液晶モニターは、チルト式液晶モニターだ。画面を上下に動かすことで、ハイアングルやローアングルの撮影でも画面を見ながら行うことができる。また、液晶モニターとファインダーの表示内容はほとんど同じだ。

1 液晶モニターの表示を覚える



1 AFフレーム	12 ダイナミックレンジ	23 測光モード
2 位置情報取得状態	13 電子音&フラッシュ	24 撮影モード
3 Bluetooth ON/OFF	14 ブーストモード	25 フォーカスモード
4 動画モード	15 ヒストグラム	26 AF + MF
5 動画の記録可能時間 / 記録経過時間	16 給電状態	27 シャッター方式
6 撮影可能枚数	17 バッテリー残量表示	28 連写モード
7 画像サイズ	18 ISO感度	29 露出インジケータ
8 画質モード	19 露出補正	30 電子水準器
9 タッチパネルモード	20 絞り値	31 フラッシュ
10 ホワイトバランス	21 シャッタースピード	32 ブレ防止
11 フィルムシミュレーション	22 距離指標バー	

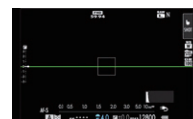
2 液晶モニターの表示内容を変更する

液晶モニターの表示内容は、**DISP/BACK**ボタンを押して変更することができる。液晶モニターの表示は3種類だ。なお、EVFの表示内容変更も同じ方法で行う。



液晶モニターの情報表示は、カメラ背面の **DISP/BACK** ボタンを押すだけで変更できる①。

スタンダード



情報表示なし



INFO画面

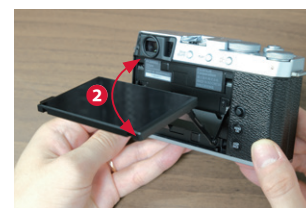


3 チルト式液晶モニターを活用する

X-E4のチルト式液晶モニターは、画面を上下に大きく動かすことができ、上方向には180度動かすことができる。特に便利なのがセルフイーで、上方向に180度上げると、液晶モニターに写る自分の姿を見ながら撮影することができる。



画像モニター左下にあるツメを引っ張り、画面を引き出す①。



カメラのアングルに合わせて上下方向にモニターを動かす②。

まとめ

- 液晶モニター (LCD) の表示内容を覚える
- LCD の表示内容は変更できる
- LCD は上下方向にチルトすることができる

1

X-E4の基本をマスターしよう

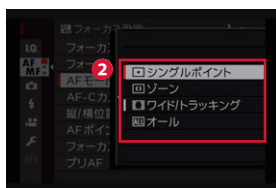
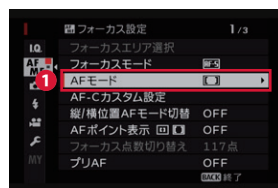
AFモードを選ぼう

keyword AFモード / AF-S / AF-C / フォーカスエリア

「AFモード」とは、「コンティニユアスAF (AF-C)」と「シングルAF (AF-S)」時のフォーカスエリアを（ピントを合わせる場所）選択する機能のことだ。主にフォーカスエリアの大きさを換え、その範囲でAFを駆動させるかを選択できる。

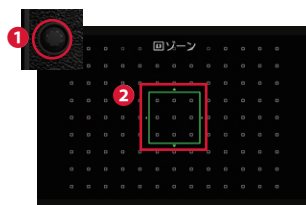
1 AFモードの種類を知り選択する

AFモードは、コンティニユアスAF時とシングルAF時で選択できるモードが変わり、合計4つのモードの中から選択する。「オール」は、撮影中にAFモードを素早く切り替えるためのモードだ。



フォーカス設定から「AFモード」任意のモードを選択する②。

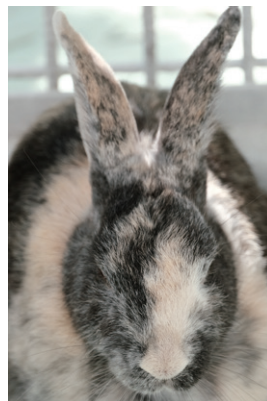
■ フォーカスエリアの大きさを変える



撮影画面でフォーカスレバーを上・下・左・右いずれかに操作すると①、フォーカスエリアの位置を変更できる②。

フロントコマンドダイヤルを左右に回すと③、フォーカスエリアの大きさを変更できる④。AFモード「オール」設定時にこの操作をすると、AFモードを変更できる。

シングルポイント



1 点のスポットで被写体を捉える。もっとも基本的で使いやすい AF モードだ。

ゾーン



やや動きのある被写体や、画面内に複数の被写体があるシーンに向いているモード。1 点のスポットを基準に、その周辺のスポットも駆動して、やや広いゾーンで被写体を捉える。

ワイド



AF-S で使用できるモード。画面内のすべてから、コントラストが高い被写体を選んでピントを合わせる。ピントの合ったスポットは画面内に緑の枠で表示される。

トラッキング

AF-C 時に使用できるモード。画面内すべてのフォーカスエリアを使用して、広く動く被写体を追いつける。



まとめ

- AFモードとは、フォーカスエリアを選択する機能のこと
- フォーカスエリアの位置と大きさを選択することができる
- 「オール」は他のすべてのモードの中から素早く選択できるモード

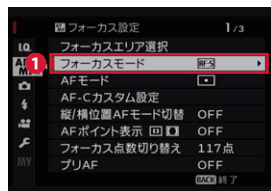
Section
08MFを使って
手動でピントを合わせよう

keyword MF

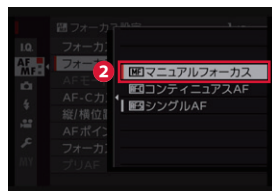
マニュアルフォーカス (MF) とは、**レンズのフォーカスリングを回して手動でピントを合わせる機能**だ。動かない被写体や、AFではピントが合いにくい場面で活用できる。マクロレンズによる近接撮影でもMFを利用すると良いだろう。

1 MFに設定する

MFはフォーカスモード (→P.34) のひとつだ。設定も「フォーカスモード」から行う。**レンズによってフォーカスリングの位置が変わる**ため、実際にピント合わせの操作をする際はどの部分を回すかを確認しよう。



フォーカス設定から「フォーカスモード」を選択する①。



「マニュアルフォーカス」を選択する②。



レンズのフォーカスリングを回してピント位置を調節する③。



撮影画面下に距離指標が表示されるので④、これを参考にピントを合わせる。

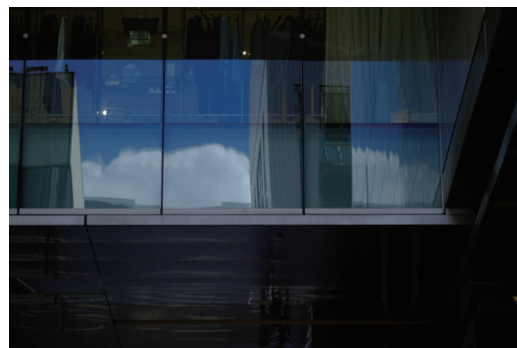


撮影画面でフォーカスレバー中央を押すと、フォーカスエリアがある場所を拡大してピントを確認できる⑤。

2 MFを活用する

MFは、**AFではピントが合いにくい場面**で使用する。例えば、手前と奥に被写体があり、どちらにピントを合わせるべきかカメラが迷ってしまう場面だ。また、マクロレンズで近接撮影をしている時も、MFで厳密にピントを合わせるのが良いだろう。

窓に映り込んだ青空にピントを合わせて撮影。AFでは窓や窓の中の室内にピントを合わせてしまう可能性があったため、MFで合わせた。



カメラ設定

撮影モード 絞り優先 絞り値 F2.8 シャッタースピード 1/640秒 露出補正 -1.3 ISO感度 160
WB 晴れ 使用レンズ XF50-140mmF2.8 R LM OIS WR 焦点距離 83.8mm (126mm)
フィルムシミュレーション Velvia / ビッド



こちらは反対に窓の中の被写体にピントを合わせて撮影。窓に映り込んだ風景は前ボケとなりアクセントを作っている。

カメラ設定

撮影モード 絞り優先 絞り値 F1.4 シャッタースピード 1/100秒 露出補正 +1 ISO感度 200
WB 晴れ 使用レンズ XF35mmF1.4 R 焦点距離 35mm (52.5mm)
フィルムシミュレーション ASTIA / ソフト

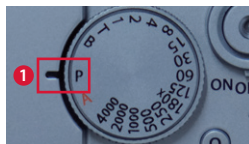
04 プログラムで撮影しよう

keyword ・プログラム／絞り／シャッタースピード

プログラムとは、絞りもシャッタースピードもカメラが設定し、その組み合わせを撮影者が設定するモードだ。X-E4には初心者用のフルオートモードがないため、**プログラムがもっとも近い撮影モードになる。**

1 プログラムに設定する

プログラムはシャッタースピードダイヤルから設定する。フロントコマンドダイヤルを回すと、絞りとシャッタースピードの組み合わせを変える「プログラムシフト」を行う。露出は一定のまま、絞り値によるボケ具合や、シャッタースピードによるブレを変えることができる。

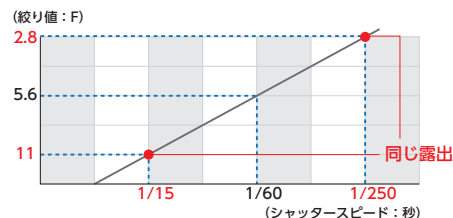


プログラムは、シャッタースピードダイヤルを「P」に合わせるだけで設定完了だ①。



フロントコマンドダイヤルを回すと②、絞り値とシャッタースピードの組み合わせが変化する（プログラムシフト）③。

■プログラムシフトを理解する



露出量は一定のまま、絞りとシャッタースピードを変えることを「プログラムシフト」という。X-E4では、ダイナミックレンジ（→P.142）を「AUTO」以外のモードに設定する必要がある。

2 プログラムで撮影する

プログラムは露出の設定をカメラが自動で行ってくれるため、とっさに訪れたシャッターチャンスに向いている。X-E4の携帯性を考えればスナップでもっとも活躍するだろう。今その瞬間をありのままに撮影したい、という場合に、カメラをサッと取り出して撮影できる。



立ち並ぶビル群を撮影。写真右端の明るい部分と、ビルの影になっている部分の輝度差が大きく、露出の調整が難しい場面だったが、プログラムで撮影することで適切な露出になった。

カメラ設定

撮影モード プログラム 絞り値 F5.6 シャッタースピード 1/100秒 露出補正 ±0 ISO感度 320
WB 晴れ 使用レンズ XF16-80mmF4 R OIS WR 焦点距離 80mm(120mm)
フィルムシミュレーション Velvia / ビビッド

まとめ

- 絞り値もシャッタースピードもカメラが決める撮影モード
- プログラムシフトで絞り値とシャッタースピードの組み合わせを変える
- とっさの撮影でも適切な露出を得ることができる

Section
04標準・中望遠の
単焦点レンズで撮影しよう

keyword 標準レンズ／中望遠レンズ／単焦点レンズ

標準単焦点レンズとは、23mmから35mm周辺の焦点距離が固定されたレンズのこと。ズームレンズのように焦点距離を変えられる便利さはないが、軽量コンパクト、明るくてボケが大きく描写性能が優れている、といった長所がある。

1 XF35mmF1.4 R

本来は欠点であるはずの収差をコントロールし、ピント部分にはきちんとキレがある。一方でボケが非常にやわらかく、写真からは豊かな立体感と優しさを感じられる。高解像を追い求めざるを得ない最新のレンズに対して、根強いファンがいるのも当然だ。



カメラ設定					
撮影モード	絞り優先	絞り値	F1.4	シャッタースピード	1/500秒
露出補正	+1	ISO感度	160	ホワイトバランス	晴れ
使用レンズ	XF35mmF1.4 R			焦点距離	35mm(52.5mm)
フィルムシミュレーション	ASTIA / ソフト				

2 Xシリーズ最初の交換レンズのうちの一本

2012年、Xシリーズは交換レンズとして最初の三本を発売した。X-Pro1がプラットフォームだったこともあり、小型軽量で、フィルムに慣れた人たちが違和感なく移行できるよう操作性に配慮し、ボケの美しさと優しい描写が特長だった。中でも際立った個性を持ち、長く愛され続け、「このレンズのためにXを使っている」といった声まであるのがXF35mmF1.4 Rだ。最新のセンサーで撮って仔細に観察すれば、描写の破綻もあり、動作や挙動の欠点もある。それでも「大切な被写体はこのレンズで撮りたい」というような、写真に心が写ると信じている人たちにとって、価値が色褪せることはない。



カメラ設定
 撮影モード 絞り優先 絞り値 F1.4
 シャッタースピード 1/640秒 露出補正 +1
 ISO感度 200 WB 晴れ
 使用レンズ XF35mmF1.4 R
 焦点距離 35mm(52.5mm)
 フィルムシミュレーション ASTIA / ソフト

カメラ設定
 撮影モード 絞り優先
 絞り値 F1.4
 シャッタースピード 1/2000秒
 露出補正 +0.3
 ISO感度 200
 WB 晴れ
 使用レンズ XF35mmF1.4 R
 焦点距離 35mm(52.5mm)
 フィルムシミュレーション PRO
 Neg. Std



5

フィルムシミュレーションを使いこなそう

クラシッククロームは、それまでのフィルムシミュレーションに共通する特徴であったマゼンタ寄りの色合いではなく、グリーン寄りで、とてもクールな印象を受ける。「印刷された写真のような」とメーカーがアナウンスしていたように、シャドウが少し沈み、中間調にコントラストがある。派手な色も飽和することがなく、ハイライトには粘りがあって、とにかく使い勝手が良い。スナップ、ポートレート、テーブルフォトなど、幅広い場面で品が良くてカッコいい写真が撮れる。



建築物やアンティーク品との相性が抜群

歴史ある建造物やアンティーク品などとの相性は抜群だ。色の偏りがなく、引き締まったシャドウが品位をもたらしてくれる。輝きが美しく表現されるのも特徴のひとつ。

カメラ設定					
撮影モード	絞り優先	絞り値	F5.0	シャッタースピード	1/800秒
露出補正	-1	ISO感度	160	ホワイトバランス	晴れ
使用レンズ	XF100-400mmF4.5-5.6 R LM OIS WR				
焦点距離	183mm(275mm)	フィルムシミュレーション		クラシッククローム	

かためのシャドウを生かして、人の気配がない古い商店街を撮ってみた。古い木造建築の質感が美しい。PROVIAと比べると青空にまったくマゼンタ味がなく、色の傾向が違うことがわかる。



カメラ設定

撮影モード プログラム
絞り値 F5.0
シャッタースピード
1/1000秒
露出補正 -1
ISO感度 160
WB 晴れ
使用レンズ XF18mmF1.4
R LM WR
焦点距離 18mm(27mm)
フィルムシミュレーション
クラシッククローム

ワイドレンズや直線の多い被写体と相性が良く、スナップでとても重宝する。シャドウが沈み、中間調にメリハリがあるのに、ハイライトはかんたんに白飛びしないのも良い。



カメラ設定

撮影モード プログラム 絞り値 F3.2
シャッタースピード 1/125秒 露出補正 -0.3
ISO感度 320 WB 晴れ
使用レンズ XF14mmF2.8 R
焦点距離 14mm(21mm)
フィルムシミュレーション クラシッククローム

- グリーン寄りでクールな印象を受けるモード
- 「印刷された写真のよう」に仕上がる
- 品が良くてカッコいい写真が撮れる

Section
04ダイナミックレンジを拡大して
白飛びや黒つぶれを防ごう

keyword ・ダイナミックレンジ／白飛び／黒つぶれ

フィルムでは、破綻することなく表現できる露出の幅のことを、ラティチュードと呼んでいた。デジタルカメラでは**ダイナミックレンジ**という言葉で表す。X-E4はダイナミックレンジを拡大し、白飛びや黒つぶれが起きる可能性を低くすることができる。

1 ダイナミックレンジを設定する

ダイナミックレンジはクイックメニューから設定するのがもっとも早い。詳細設定もないので、変更する場合はクイックメニューからアクセスするのが良いだろう。



クイックメニューを表示し、ダイナミックレンジにカーソルを合わせる①。



フロントコマンドダイヤルを回して、任意の数値を設定する②。

2 ダイナミックレンジを設定して撮影する

ダイナミックレンジが活躍するのは、快晴の逆光など、**輝度差の大きい場面**だ。ハイライト側に拡大するので、シャドウ側に露出を合わせて使うのがポイント。また、ダイナミックレンジ400%はISO400以上、400%はISO800以上に設定した時のみ使用できるので、ISO感度は高めに設定しておく。ただし、輝度差があまりない状況でダイナミックレンジを強くしすぎると、メリハリのない写真になってしまうので注意が必要だ。



ダイナミックレンジ「400%」

カメラ設定

撮影モード プログラム
絞り値 F9.0
シャッター速度 1/100秒
露出補正 +0.7
ISO感度 200
WB 晴れ
使用レンズ XF10-24mmF4 R OIS WR
焦点距離 20.9mm(31mm)
フィルムシミュレーション クラシック

ダイナミックレンジ
「AUTO」

カメラ設定

撮影モード プログラム
絞り値 F10
シャッター速度 1/6000秒
露出補正 -1.7
ISO感度 1600 WB 晴れ
使用レンズ XF27mmF2.8 R WR
焦点距離 27mm(41mm)
フィルムシミュレーション
ASTIA / ソフト



作例を見るとわかるように、影になっている部分にしっかりとディテールがあり、雲の明るい部分も白飛びしていない。しかし、便利な機能だからといっていつも最大の400%に設定していると、光の具合によってメリハリのないトーンになってしまう。最適な補正値を見つけよう。

まとめ

- ダイナミックレンジとは、表現できる露出の幅を広げる機能のこと
- X-E4のダイナミックレンジはハイライト側に広げる
- ISO感度を高めに設定して使用する

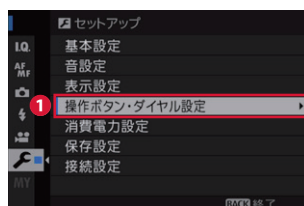
Section
09タッチファンクションを
設定しよう

keyword タッチファンクション

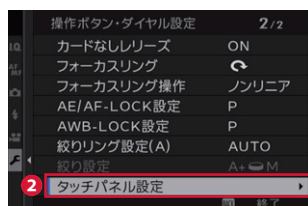
タッチファンクションとは、**撮影画面で液晶モニターをフリックし、特定の機能呼び出す機能**だ。ボタンなどの操作をせずに機能の呼び出しができるので、スピーディに設定変更ができる。機能の割り当てはファンクション設定から行う(→P.162)。

1 タッチファンクションを有効にする

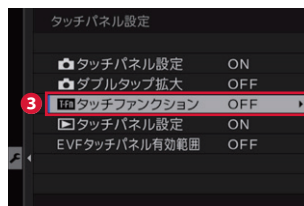
タッチファンクションを利用するには、まずタッチファンクション機能を有効にする必要がある。初期設定ではOFFになっているので、利用したい場合は必ずONにしよう。



セットアップメニューから「操作ボタン・ダイヤル設定」を選択する①。



「タッチパネル設定」を選択する②。



「タッチファンクション設定」を選択する③。



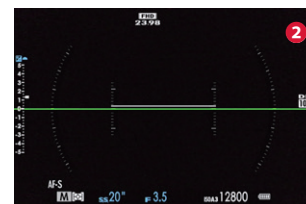
「ON」に設定する④。

2 タッチファンクションを利用する

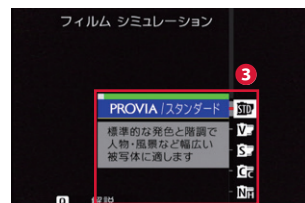
タッチファンクションの操作は、撮影画面で液晶モニターをフリックするだけだ。画質モードなど複数の項目の中から選択する設定は、フリックの後に任意の項目をタッチ操作で選択する。



撮影画面で液晶モニターに触れ、なぞるようにフリックする①。



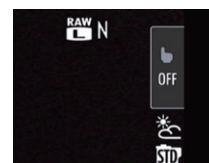
例えば初期設定では下方向のフリックに電子水準器が割り当てられているため、下へフリックすると電子水準器が表示される②。



画質モードなど、複数の項目から選択する機能は、フリック後に項目が表示されるので、タッチ操作かフォーカスレバーで選択する③。

ONE POINT タッチシャッターの設定には影響されない

タッチファンクションとタッチシャッターの機能は独立している。そのため、タッチシャッターの機能をOFFにしても、タッチファンクションは利用できる。



まとめ

- 液晶モニターをフリックすることで機能呼び出すことができる
- 初期設定では OFF になっているので使用する時は必ず ON にする
- 呼び出す機能は編集することができる